

平安時代と現代の文化の違いなどについての班ごとの発表

■ 単元名：表現に注目しながら作品を味わおう(『源氏物語』『小柴垣のもと』)

【単元の目標(めざす生徒の姿)】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
「源氏物語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	「小柴垣のもと」における話の展開を的確に捉えることができる。「小柴垣のもと」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会に対する自分の考えを広げたり深めたりできる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

■ 使用する機器、アプリ等

Chromebook、Google スライド、Google フォーム

■ 学習のねらい

これまでの学習内容をもとに、光源氏が若紫を自然と見つめてしまう理由や、平安時代の現代とは異なる文化について、自分の言葉でまとめ、発表することができる。

■ 学習の流れ

【本時までの学習】(3時間)

「本文内容の把握」・・・光源氏の行動の読み取り。垣間見についての理解。尼や少女の様子把握。

「発表準備」・・・平安時代と現代の文化の違いや少女の様子を班ごとに Google スライドにまとめる。

【本時の流れ】(50分)

本時のポイント「班で意見をまとめ、発表。その発表に対して評価を行う。」

『源氏物語』『小柴垣のもと』について、3時間の授業において本文の内容を把握したうえで、4時間めに「少女(若紫)ってこんな人」、「光源氏が少女を自然と見つめてしまうのはなぜ」、「現代と異なる平安時代の文化」について班で意見を出し、Google スライドにまとめた。それを全体で発表する。聞いている生徒たちは、クラスルームに投稿した Google フォームにより発表に対する評価を行う。

時間	学習内容・活動
5分 導入	(内容)本時の流れと目標を確認する。 (活動)班ごとに前時に準備した発表資料について確認する。
10分 展開①	(活動)前時から作成している発表資料を完成させる(Google スライドを用いて共同編集で作業をする)。完成した資料を提出する。
30分 展開②	(活動)1班2分で前に出て、黒板に映したスライドにより、「少女(若紫)ってこんな人」、「光源氏が少女を自然と見つめてしまうのはなぜ」、「現代と異なる平安時代の文化」についての班の意見や考えを発表する。他の班の生徒は発表に対する評価を行う。
5分 まとめ	(内容)それぞれの班から出された意見をもとに、これまでの学習を振り返る。出された意見をまとめておき、スライドで示し共有する。

○評価ルーブリック

	A	B	C
スライドの見やすさ	発表する内容が示されている。聞いている人に伝わりやすい工夫が見られる。	発表する内容が示されている。	内容が不足している(資料が完成していない)。
発表の工夫	聞き取ることのできる声で発表している。聞き手の興味を引き付ける話し方をしている。	聞き取ることのできる声で発表している。	発表者の声を聞き取ることができない。
内容	授業で学んだことを使って発表している。さらに自分たちで調べたことを根拠として発表している。	授業で学んだことを使って発表している。	授業で学んだことを使って書いていない。もしくは、自分たちで調べていても、根拠をもとに発表できていない。

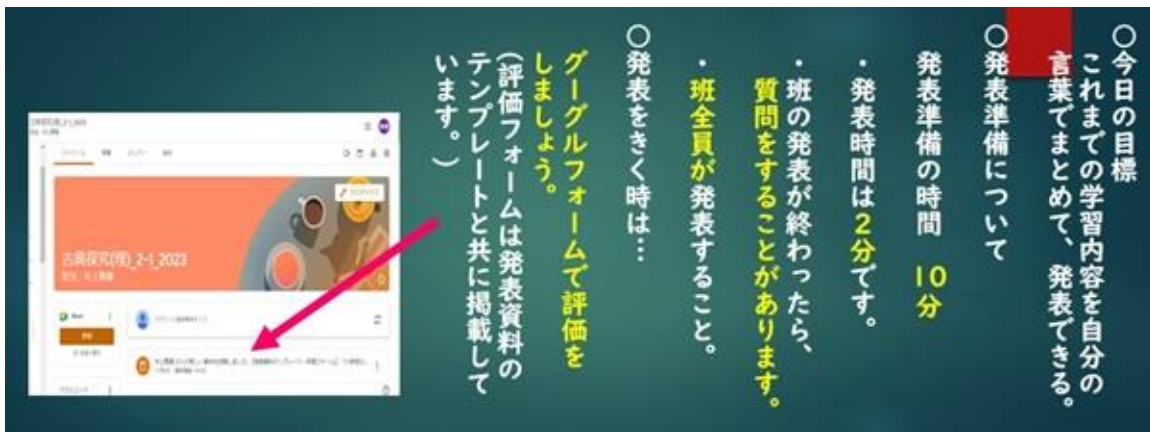
■ ココで ICT を活用！

発表資料を Google スライドの共同編集によりグループ全員が作成する

クラスルームに発表資料のひな型として、タイトルスライドに加えて、「若紫ってこんな人」、「光源氏が少女を自然と見つめてしまうのは」、「現代と異なる平安時代の文化」、「参考文献」のタイトルを入れたスライドを投稿しておき、各班員が相談・協力しながら、それぞれの項目について調べ、意見をまとめ、発表資料を完成する。

各班の発表に対して Google フォームにより評価する

各班の発表に対して、教員から質問をするとともに、他の班の生徒全員がクラスルームに投稿した Google フォームにより評価を行う。評価については事前に評価ルーブリックとして示した「スライドの見やすさ」、「発表の工夫」、「内容」の3つの項目に対して「A」、「B」、「C」のいずれかで行う。また、自由記述として発表班に対するコメントを書くことができるようにした。



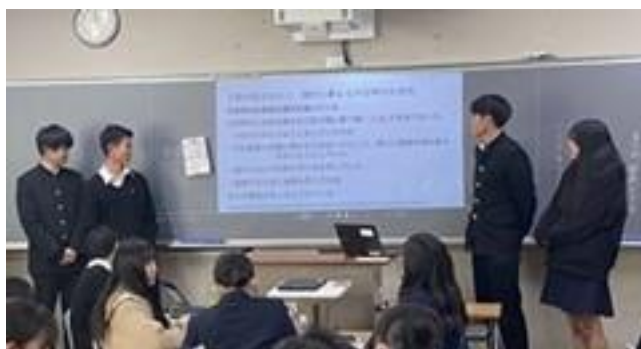
■ ICT 活用のメリット

Google スライドの共同編集により作業分担が可能

1つのファイルに対し共同編集機能を用いることで、各班員一人ひとりが役割分担のもと作業をすすめることができる。まずは各自が調べたことをスライドに落とし込み、その内容について班の全員が議論し加筆・修正していくことができるため、全員が協力しながら発表資料の完成に向けて作り上げていこうとする機運を高めることができる。また、全員が取り組むことで時間的にも効率的に作業をすすめることができる。さらに、授業という限られた時間内に完成しない場合にも、各班で調整のうえ、その他の時間にも作業を継続することができる。

完成したスライドを提出させ、プロジェクターで投影

本時の導入として、今日の目標「これまでの学習内容を自分の言葉でまとめて、発表できる。」を伝えた後、各班が作成した発表資料を確認のうえ、発表に向けた準備(打ち合わせ)を行い、発表資料を提出させる。ファイルを提出させることで、教員は提出された発表資料を自らの端末によりプロジェクターで投影し、順に発表させることが可能となる。



■ 本実践での工夫

発表資料作成にあたり、発表に対する評価ルーブリックを示した

今回、発表内容の質の向上と発表方法の工夫をめざし、生徒たちの発表に対する意識を高めることを目的として、各班の発表に対し他の班員から評価を行うことを伝えるとともに、各班が発表資料を作成し始めるにあたり、その評価の視点と基準を記述した評価ルーブリックを提示した。

各班からの発表に対して、教員から質問することがあることを伝えた

発表については、自分たちが考えたことを発表して終わりではなく、聴衆からの質疑に対して応答することが重要である。そのことが生徒たちの深い学びに繋がるとともに、応答力を養うことができる。本来は聴衆である生徒からの質疑応答の時間を設定できればよいが、時間の制約もあり、教員から質問することがあることを伝えたくて、実際に複数の班に対して質問を行ったところである。

発表資料の作成と当日の発表に班員全員が関わるよう工夫した

前述のとおり、今回、発表資料のひな型として、あらかじめ複数枚のタイトルを入力したスライドを配付した。各班において取り組むべきことを明確にするとともに、役割分担を行いやすくするためである。また、発表については班の全員が必ずどこかで発表することを指示した。こうした工夫により、発表資料の作成および発表に班員全員が関わるることができたと思う。

エクセルの乱数を用いて発表順を決定した

各班からの発表の開始にあたり、発表順については全体の場でエクセルの乱数を用いて決定した。公平に決定することに加えて、発表に向けた生徒たちの気持ちの盛り上がりを期待した工夫である。

■ 実践の振り返り-活用を深めるために-

今回、「表現に注目しながら作品を味わおう(『源氏物語』『小柴垣のもと』)」という単元のまとめとして、班ごとの発表を取り入れた。そのことによって、3時間で行った本文の内容(光源氏の行動の読み取り、垣間見についての理解、尼や少女の様子への把握など)の理解を深めることができたのではないかと考えている。

また、今回、Google スライドの共同編集を用いた発表資料の作成や Google フォームによる発表に対する評価を行ったことで、今後同じような活動を行う場合には、生徒たちはもっと速やかに取組をすすめることが可能になっているだろうと考える。各単元でこうした時間を取ることは困難な状況ではあるが、また機会があれば取り入れていきたいと考えている。